

2018（平成30）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 A 日程試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は4ページから5ページにあります。問題は全部で**2問**です。
- 3 解答用紙には裏にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。

問題 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

人間圏がどのように拡大・発展し、現在はどのような状況にあるかを見ていくと、文明が直面する問題とは、どのような問題なのかがよく理解できます。

狩猟採集時代、すなわち人類がまだ人間圏をつくらずに生物圏のなかの種のひとつとして生きていた時代を、発展段階の「0」とします。地球はまだ「生命の惑星」でした。

農耕牧畜時代。人類は生物圏から分かれ、人間圏をつくって生きる生き方を始めます。文明の始まりです。生物圏から分かれたとはいえ人類は、太陽光（水力、風力を含みます）や地熱といった、地球システムにおける固有なエネルギーのみを利用しており、地球システムと調和的な関係を保ちながら、ゆるやかに発展を続けていきます。この段階が発展段階の「Ⅰ」です。そのエネルギー利用に注目すれば、「フロー依存型人間圏」といえます。この段階から、地球は「文明の惑星」となります。

現代の人間圏はこの段階とは異なります。産業革命を契機に、人類が利用するエネルギーは石炭・石油といった化石燃料や、原子力に移行していきます。これらは、地球がその物質循環の歴史の中で、地殻という構成要素にストックしてきたエネルギーです。

このことにより人間圏は、システムとしてその内部に自前の駆動力を持つことになりました。地球システムの物質循環を自らの意思で、新たに創出することが可能になったということです。その結果人間圏は、フロー依存型人間圏の限界を超えて急激に拡大することとなります。

なぜか？ 自前の駆動力をもつと、地球システムの物質循環のスピードを上げることができ、それは、人間圏に流入する物質の量を増やすことを意味します。その結果、自らの欲望に応じて豊かに暮らすという、現代のライフスタイルが実現したのです。この段階が発展段階の「Ⅱ」です。Ⅰのフロー依存型人間圏との比較でいえばこの人間圏は「ストック依存型人間圏」と呼べるでしょう。

同時に人類は「文明のパラドックス」という問題に直面するようになります。欲望という右肩上がりの幻想と、地球という有限の資源との間の分離です。そして二一世紀。拡大を続ける人間圏はいよいよ「地球システムを超えて、無限に大きくはならない」という現実にぶつかります。はたして人類は、地球システムと調和的な人間圏を構築できるのか。Ⅱに続く発展段階「Ⅲ」とは何か。文明はいままさに正念場を迎えているのです。

発展段階「Ⅲ」とは現在の、情報革命の時代です。インターネットの普及により、人間圏の構成要素が変化し始めました。従来の、国や会社という構成要素に代わり、個々の人間が、人

人間圏の構成要素として名乗りを挙げはじめました。それは重層的にネットワークを構成し、瞬時につながり、複雑に相互作用します。そのつながり方は、人間圏の内部システムの安定性に関係します。構成要素である個々の人間がネットワークを通じてつながり、その接続の仕方が、全体の安定性をコントロールするからです。ハブのような構造の形成が重要な意味を持ちます。この場合、一般システム論に代わりネットワーク論が、分析手法として有効になります。さらに最近では、ビッグデータの利用という新たな可能性が生まれています。フェーズⅢという段階に突入した人間圏の、内部システムの分析が可能になりつつあります。人文科学や社会科学と呼ばれてきた分野が初めて、自然科学と同じような意味での「科学」として、誕生しつつあるといえるでしょう。

こうして見ていくと人間圏が、その内部に駆動力を持ったことが、文明と地球システムのバランスを危うくしたきっかけであったことがわかります。人間の欲望の拡大のままに拡大を続ける人間圏に、ストップをかけることは可能なのか。それが、人類に突きつけられた最大の課題であるということです。

(松井孝典『文明は〈見えない世界〉がつくる』岩波書店、2017年より)

注　フロー【flow】流れ　ストック【stock】蓄積　ハブ【hub】中心、中枢

問1 「ストック依存型人間圏」の〔長所〕と〔短所〕について、本文をそのまま引用せずに、わかりやすく述べなさい。

問2 文中では、人類の発展段階が「0」→「Ⅰ」→「Ⅱ」→「Ⅲ」と展開してきたと作者は主張している。発展段階「Ⅲ」において、人間が取り組むべき課題とその解決方法について、あなたはどのように考えますか。反論を予想しながら、自分の考えを論述しなさい。

